

令和 8 年度第 1 回廃炉安全監視協議会 意見・質問

(原子力安全対策課)

No.	資料	頁	意見・質問内容	回答（東京電力）
1	資料1	15	噴霧の連続時間は約7分と記載されている。一方、可動屋根の閉鎖にかかる時間が30分とのことであったが、閉鎖にかかる時間に対して噴霧時間が短すぎないか。 (田中専門委員)	まず、ガレキ撤去作業について説明いたします。ダストが発生する可能性が高いガレキ撤去作業実施時は、可動屋根は全閉で作業し、さらに換気設備によりカバー内の空気をフィルタを通して大気中に放出することでダストの飛散リスクを低減します。大物ガレキを可動屋根より搬出する前には、搬出する大物ガレキに散水し、ダスト飛散リスクを低減いたします。 散水設備の噴霧時間は約7分（連続）ですが、もしもの警報発報時の散水は7分間連続で散水するのではなく、断続的に実施しダスト濃度低下を目指します。
2	資料1	27	「燃料取扱機として前例のないブーム型を採用」とあるが、なぜヒューマンエラーを誘発しかねない、「前例のない機器」を使うのか。実績のある代替機器はないのか。 (田中専門委員)	既存発電所の燃料取扱設備は門型であり、実績のある機器となります。 一方、2号機においては、ダスト飛散抑制および雨水流入防止の観点から、原子炉建屋を解体しない工法で燃料を取り出す方式を選定しております。これに伴い、小開口部から燃料取出用構台を往来可能とするため、従来の燃料取扱設備よりもコンパクトな機器を製作する必要があり、ブーム型の燃料取扱設備を採用しております。 当該機器においては、ヒューマンエラーを誘発しないようインターロックを設けるとともに、実機を用いた訓練を実施し、力量が認定された作業者が操作することで、ヒューマンエラーの防止を図っております。
3	資料2-2	8,10	後半の参考資料（p. 8やp. 10）では、ファイバースコープの挿入限界は4m(N16Aノズルから)となっていたが、実際には6mまで挿入して調査を実施している。挿入距離を変えた理由は何か。 (田中専門委員)	事前のモックアップではファイバースコープのΦ6mmとΦ5mmの継ぎ目が既設計装備管のエルボを超えないことを確認していたため、RPV内で伸ばせる長さは最大4mが限界と考えていたが、現場にてファイバースコープ挿入時に継ぎ目がエルボを超えたため余長が生じたものと考えています。